



## 『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

## ◇牧師からのメッセージ

**「敵を愛せ」は無意味な理想主義でしょうか？** たまたまつけたテレビの画面で、親ムバラク派のエジプトの青年がアメリカ人レポーターに怒鳴っていました。「敵を愛せなんてばかばかしい！」彼がどんなコンテキストの中でその言葉を吐いたのかは分かりませんが、多くの人がこの言葉に賛成すると思います。私が教えた一人の学生はこう言っていました。「イエスは単なる夢想的理想主義者だったんですね」。この学生の頭の中にあっただのは、「敵を愛しなさい」というイエスの言葉でした。◆原典は以下の通りです。「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」(マタイによる福音書5章44節) これは読む者の心を和らげることはあっても、所詮憎しみや猜疑心が渦巻く現実では空しい理想でしかないのでしょうか。◆ここで一つ押さえておくべき点があります。それは、愛することはその人を好きになることとは違うということです。敵を愛することは、敵対者がこの自分と同じように神に愛されているということに気づくことです。◆終戦の時、私は疎開先の小学校の1年生でした。クラスにどうにも我慢のならない嫌な子がいました。土地っ子でない私をことあるごとにいじめます。私は彼を一对一でとちめてやろうと思い、ある日校門の前で待ち構えていました。そこにお父さんに連れられた私の敵対者がやってきました。何と、お父さんと手をつないでいたのです。私は子供心に「この子は僕と同じように愛されているんだ」と思いました。私は東京に戻るまでその子を好きになれませんでした。しかし、彼をとちめてやろうという気持ちからは解放されました。「あの子と僕は愛されているということで結ばれているんだ」という気がしたからです。◆繰り返しますが、敵を愛するという事は、敵対者が自分と同じように、親から愛され、妻や夫から愛され、子供から愛され、友人から愛され、そして何にも増して神から愛されているということに気づくことです。視点を変えて相手を見ることです。「敵を愛せ」という言葉は空しいものではありません。イエスは決して夢想的理想主義の説教者ではありません。愛こそ疎外を連帯に変え、暴力の世界に和解をもたらす唯一の力なのです。

## ◇日曜礼拝説教の要約◇

■1月9日「**信仰の危機と神の働き**」 イザヤ書55章8節—11節 イスラエルの歴史の中で最も困難を極めた時期は、紀元前6世紀、7世紀にイスラエルの民の大部分がバビロニアやアッシリアに捕囚として連れていかれた時代です。その暗く、絶望に満ちた時期に彼らは問わざるを得ませんでした。「神は私を心にかけておられるのか。私の存在を知っておられるのか。」この問いの背後にある精神的動揺、魂の揺れ、それは信仰の危機以外の何ものでもありませんでした。◆この信仰の危機に直面したイスラエルの民に、勇気と力を与えようと必死に頑張ったのがイザヤ、エレミア、アモス、ホセア等の預言者と呼ばれる人々でした。彼らは精神的混乱にいる民に神は私たちを心にかけてくださっている、信仰を強くもちなさい、と語り続けました。◆しかし、預言者は同時に、いかなる人間も神の愛に値しないことを肝に銘じて知っていました。「われわれの正しい行いは汚れた衣のようだ。」人間は神の赦しを必要としているが、汚れた雑巾のような心を持つ人間は神の赦しに値しないのです。それでは、神の赦しはどのようにして可能となるのでしょうか。実はこの問いへの答えは、預言者にも分かりませんでした。「神の思いは私たちの思いと異なる。神の道は私たちの道と同じではない。」と言うより他に術がなかったのです。◆新約聖書はこの預言者も答えられなかった問いに答えています。神は私たちの罪の結果を自ら負い給うた。その痛みによって私たちは癒された。神ご自身が、イエスの十字架によって、私たちが負うべき罰を私たちに代って背負われた。◆この福音は、人間の理性やロジックを超越します。ですから私たちはそれをへりくだった心で受け入れる以外に道はありません。「神はその独り子を世に送られたほどにわたしたちを愛してくださいました。神は御子イエスを代価にあなたを買い取ってくださいました。だから疑う必要はない。」

■1月16日「**わたしは道である**」 ヨハネによる福音書14章1—7節 「わたしは道であり、真理であり、命である」。主イエスが示された道、それは、神の道、真の道、命へとつながる道、つまり人間を本当に人間らしくする道だということです。それに反して人間の常識が考え出す道は、人間らしさを破壊するまやかしの道、つまり死につながる道であり、その具体的な内容は、イエスの時代のユダヤ社会を金縛りにしていた価値観に明らかです。◆その教えの一つは、心身ともに健康な者だけがまともな人間だという常識で、社会的な成功を収めた人や富を築いた人だけが神の恵みに与ることができるということです。これは、病気で働けない人や働きたくても働き口のない90%を占める貧困層の人にとっては、過酷極まりない教えでした。人と人とを分け隔てる社会を造り出してしまったのです。◆当時の差別社会の特徴は三つに大別できます。一つ目は、徹底した女性蔑視です。二つ目、それは、ユダヤ民族優越主義です。非ユダヤ人は、神の

# 日米合同教会月報67巻2011年2月号

愛と慈しみの範疇の外に置かれているという排他主義です。そして三つ目。神は富裕な人々、健康な人々を慈しみ、貧しい人々、病気の人々を呪われる。そのような信仰理解から、差別が神の意思の現れだと考えられたのは当然でした。◆主イエスは人間の常識が造り上げたこれらの主張を徹底的に否定されました。その警告は、21世紀に生きる私たちにも迫力をもって迫ってきます。何故なら、私たちもまたこの世的成功を人間の価値を測る基準とし、男性優位を当然のこととして受け入れ、他民族を異質な存在として排除しがちだからです。◆人間らしさへと導く道、人間の尊厳を何があっても絶対に否定しない道とは、主イエスご自身です。「ユダヤ人もなく、ギリシャ人もなく、男も女もない。奴隷も自由人もない。神においてあなたたちは一つなのだ。」このメッセージを身を以て体現された主イエスこそ、道です、真理です、命そのものです。

## ◇JAUC年次総会◇

JAUC年次総会が1月30日午後1時半より社交室で開催され、39名の教会員が出席しました。この席で、投票により野口順子姉、丸橋ダウズ理加姉、今戸ちづ子姉が2011年－13年に奉仕して下さる理事会役員に選ばれました。補欠はバーズ芳恵姉です。また、丸橋姉と栗原健兄が共同で理事長として奉仕して下さることになりました。2011年－12年に奉仕して下さる管財会役員としては、吉田ジェリ姉、ジュン・ゴールドバーグ姉、市川香織姉が選出されました。吉田ジェリ姉が管財会の委員長をされます。また、2011年度教会予算案も会衆の承認を得ました。

## ◇教会の建物修理◇

**建物修復委員会報告** 4階のアパートメントの工事は無事完了しました。しばらくは日曜学校が使用する予定です。新たな暖房ユニットが設置されましたので、過ごしやすい環境となりました。屋根の修復工事は現在も続いているのですが、雪の多い季節となったためペースが遅くなっています。正面の壁のタイルの付け替えも、気温が低い状態では行えない状態です。状況が整い次第、工事を行なう予定です。老朽化していた屋上の入口・エレベーターハウスの扉は、新しいものと付け替えられました。また、教会事務所の窓には防犯用の格子が取り付けられました。どうぞこれらの修理箇所を訪ねて工事の成果をご覧になって下さい。年次総会の際に教団代表者の方を4階に案内しましたが、喜んでおられました。なお、アパートメントの床・台所キャビネットは環境上好ましい竹を素材としています。◆3月13日(日)午後1時15分より理事会・管財会合同で、今まで費やした工事費用、今後の工事予算計画、その財源について詳しく説明し検討するミーティングを教会で行なう予定です。ご興味がある方はどなたも参加出来ますので、ご出席下さい。

## ◇子供キャンプのご案内◇

SMJ (Special Ministry to the Japanese)主催の「小中学生ディスカバリーキャンプ」が今年も7月10日から22日までシェルター島(ロングアイランド)のキャンプクニペットで行なわれます。キリストの愛を土台とするこのキャンプは今回で27回目、プログラムやカウンセラーとの交流を通じて子供たちがキリストの愛に触れる場所として大いに用いられており、NYの日系コミュニティの間でも知られて来ています。費用は子供1人1300ドル。元もとJAUCの夏期臨海学校として始まったものですので、教会としても大いにサポート出来ればと思います。近く詳しい情報を掲載したチラシが来ていますので、お子様のおられるご家庭へお渡し下さい。キャンプを手伝って下さるカウンセラー、献金も募っています。なお、今年のキャンプディレクターは吉松純先生です。

## ◇お知らせ◇

■**鈴木先生の休暇** 鈴木有郷先生・エリザベス姉ご夫妻は2月8日から24日まで休暇を取られ、聖地イスラエルを旅される予定です。先生の不在の間、13日の礼拝では長老派教会のテリノ尊子先生が、また20日にはラトガース大学の大林浩先生がゲストスピーカーとしてメッセージを述べて下さいます。

■**レントのスケジュール** 主のご受難に思いをはせるレントの季節が近づいて来ました。その始まりとなる灰の水曜日(3月9日)の夕方にはJAUCで礼拝を行なう予定です。また、3月16日から聖金曜日の週末まで、鈴木先生によるレントの学びの会が毎週水曜日夕方に教会で持たれます。ぜひご参加下さい。

■**春の大掃除** 3月26日(土)に教会の大掃除が予定されております。皆様のお手伝いをどうぞよろしくお願い申し上げます。

■**花の奉仕** 礼拝委員会では、日曜礼拝の際のフラワーアレンジメントをしてくださる方を募っています。ご興味がおありの方は吉田小夜子姉又は寒河江修兄又までお知らせ下さい。

■**相良昌彦先生が今月帰国** SMJ(Special Ministry to the Japanese)コーディネーターの相良昌彦先生が3年の任期を終え



られて2月16日に日本へ帰られることになりました。帰国後は東京の青山学院高等部に宗教主任として就任される予定です。1月16日の婦人会では送別会を兼ねて相良先生をお招きし、青森県八戸、NYでの牧会生活を経て思うことについて語って頂きました。「(私たちに与えられた人生の経験は限られているかも知れませんが、)その限られた経験によっても人は豊かに生きることが出来ます。その豊かさの土台はみ言葉です。どのようなことであっても神様のみ心であれば、

# 日米合同教会月報67巻2011年2月号

それを受け止めて歩んで行けるよう神様が守って下さると信じます」。

■VIP集会 1月のVIP集会は13日に開かれ、グリニッチ教会の立石尚志先生がイザヤ書6章の言葉をもとにメッセージを述べて下さいました。「神様は限りなく清いお方であり、本来、その前に出れば私たちはすぐに滅びてしまうぐらいなのです。しかし、イエス様が十字架にかかって下さったことで、私たちはイエス様を着てみ前に出られるようになりました。年始にあたってこのことを思い起こし、清い生き方を目指し、神様にふさわしい器として神様に喜ばれるよう生活すべきです」。2月の集会は14日に予定されており、帰国間近の相良昌彦先生がお話して下さいます。NY・NJ地区の日本人信徒が集まって学びや証しの時を持つこの会は、毎月第2月曜午後7時15分からJAUCで開かれております。28日(月)にはVIP主催によるギタリストの森繁昇兄によるコンサートもJAUCで予定されています。

■イクイパー・カンファレンス JCFN (Japanese Christian Fellowship Network)主催の修養会イクイパー・カンファレンスが、カリフォルニアで12月末に開催されました。当初5名のJAUC関係者が参加を予定していましたが、大雪のためフライトのキャンセルが相次ぎ、今戸ちづ子姉のみの参加となりました。JCFN ニューヨーク支部の主催により同カンファレンスの報告会が1月15日にJAUCで開かれ、行けなかった方もイベントの様子を参加者の証しやビデオを通じて詳しく知ることが出来ました。

■向井兄が転居 イザベラホームにお住まいだった向井ジョージ兄が1月、ニューハンプシャー州へ転居されました。

■旧友便り 田部一憲兄・栄姫ご夫妻は12月8日に無事インドに到着されました。◆2003年にJAUCで洗礼を受けられ、現在シドニー近郊に在住の下田裕子姉が、1月に男の子を出産されました。名前は悠真(ゆうま)ちゃんです。おめでとうございます。

■笹森先生の詩集 駒場エデン教会の牧師で、60年代にJAUCでも牧会をされていた笹森建美先生が2冊目の詩集を刊行されました。タイトルは『祈りと賛美の詩(うた)』(キリスト新聞社)です。「神のなされる業は 皆その時にかなって美しい 人のなす業は 時にかなっているのだろうか 時を知らなくても み心を求めるならば むなしさを超えて 美しく変えられるだろう」「すべての業に時がある」など、祈りのように心に語りかける詩が60点収められています。教会図書にありますので、ご覧下さい。

## ◇私の好きな聖書の言葉◇

■栗原紀子姉 マルコ福音書1章40節—41節:「一人のらい病人が、イエスのところに願いに来て、ひざまずいて言った、『み心でしたら、きよめていただけるのですが』。イエスは深くあわれみ、手を伸ばして彼にさわし、『そうしてあげよう、きよくなれ』と言われた。すると、らい病が直ちに去って、その人はきよくなった」。

## ◇祈りのリクエスト◇

次の方々を日々の祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセバード(アセバード兄のお父様)、バーバラ・アレキサンダー師、浅井ひさよ、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、小口愛(ウェストミンスター教会)、神塚アーサー師、神塚リリー、神崎ヨネ、桑田ハリー、ゴーマン美智子、中丸真理子、野間美奈子、ケネス・バーンズ(バーンズ芳恵姉の義父)、松本二三子、向井ジョージ(ベイサイド在住)、向井ジョージ(ニューハンプシャー)、山崎あきら(堀内姉のお兄様)、湯沢キミ諸兄姉

## ◇JAUCはじめのはじめ物語

JAUCは戦後、3つの日本人教会が合同して出来た教会です。この3つのうち最初に出来たのは、1893年に始まった日本人メソジスト教会です。この教会の創設の物語は、「NYにいる日本人に福音を伝えたい」との熱意にあふれた平信徒の岡嶋金弥青年が、遠くオレゴンからNYまで歩いて来たところにさかのぼります。ブルックリンの海軍ヤードで働いていた日本人から元大学教授のナンシー・キャンベル女史を紹介された岡嶋は、同女史が開いていた中国人のための日曜学校で教えることになり、海軍ヤードで働く日本人たちをこのクラスに導くようになります。やがて彼はヤード脇に小さな伝道所を開きました。当初20人足らずしかメンバーがいなかったこの伝道所が、JAUCの原点です。◆ところで、この岡嶋青年に洗礼を受けたのは河辺貞吉師です。1887年にサンフランシスコ日本人教会で洗礼を受けた彼は翌年献身して牧師となり、後年日本自由メソジスト教会の指導者となります。その河辺に洗礼を受けたのがメリマン・ハリス師。宣教師として札幌農学校で教え、内村鑑三や新渡戸稲造に洗礼を受けた人です。◆ハリス-河辺-岡嶋を通じて、実はJAUCは明治日本のキリスト教の大きな流れとつながっていたのです。それにしても、120年近く続いているこの教会の始まりが、一人の平信徒が始めた小さな伝道所だったという事実には励まされますね。

## スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェロウシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、各グループの担当者または月報を確認下さい。

- SG 1. 女性信徒の学び会(ハインガル) 第2、4土1時 園田姉宅
- SG 2. 日本人女性の会 第2火11時 日下部姉宅
- SG 3. 男性信徒の学び会(ハインガル) 第2、4日9時半 教会(日下部兄)
- SG 4. 日本語での学び会 第2日2時 教会(春日姉)
- SG 5. 日本語「葡萄の木」の会 第4日2時 教会(小林姉)
- SG 6. 日本語「証しと祈りの会」 毎月最終金夜7時 寒河江兄宅
- SG 7. 英語での学びの会 毎月第3日曜 教会(吉田夫妻)

